

## ごあいさつ



会員・組合員・ご利用者の皆様には、日頃より東北労働金庫に対し、ご支援とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

2018年度は、第6期中期経営計画（2018年度～2020年度）のスタートを切る年度として、「お客様の状況に応じた資産形成、活用、継承の提案」（深める）、「より多くの方々への商品・サービスの提供と利用拡大」（広める）、「営業力・収益力・技術力等を高め、ろうきんブランド力の一層の向上」（高める）の3つのテーマによる「ろうきん Style（スタイル）」の定着に向け取り組みを進めてまいりました。

預金、貸出金につきましては、いずれも目標を大きく上回ることができ、特に貸出金については、住宅ローンの大幅な増加が牽引し、2003年の統合以降最大の増加額となり、着実に業容を拡大することができました。ひとえに、皆様からのご支援の賜物と心より感謝申し上げます。また、2018年度は、経営改善策に係る店舗の再編成を5店舗で実施し、新たに3店舗をオープンすることができました。今後も会員・地域コミュニティを大切に、皆様のご理解をいただきながら金融サービスの維持・向上に一層努めてまいります。

2019年度は第6期中期経営計画の中間年度として、「深める」「広める」「高める」の3つの取り組みをさらに進め、金融環境や生活スタイルの変化に対する迅速な対応、量から質への転換の加速、国連が提唱するSDGs（持続可能な開発目標）への役割発揮などの課題を克服し、会員・利用者の皆様の満足度向上に基づく「持続可能なビジネスモデルの構築」そして「ろうきん Style の定着」をめざしてまいります。

緩やかに回復基調が続いていた世界経済も米中貿易摩擦や英国のEU離脱問題等により減速し、国内景気も先行きの不透明感が増してきております。また、金融機関を取り巻く環境も、少子高齢化と人口減少による市場縮小や日銀のマイナス金利政策の長期化による厳しさが継続しており、さらにはフィンテック等金融テクノロジーの多様性への対応が求められるなど目まぐるしく変化しております。

このような環境の変化を的確に捉えながら、協同組織の福祉金融機関として、相互扶助・共助の精神に則り、すべての勤労者の方々に質の高い安定した金融サービスをお届けし、生涯にわたる豊かな生活の実現に資するよう役職員一丸となって取り組みを進めてまいりますので、今後とも皆様の変わらぬご支援、ご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

ここに2019年3月期ディスクロージャー誌を作成いたしました。皆様方に当金庫をご理解いただけるよう、事業内容・業績・今後の取り組みなどを紹介しておりますので、ご一読いただければ幸いです。

2019年7月

理事長 影山 道幸